

【1年（話すこと・聞くこと）】

ヒントの内容や順番を話し合い、『なんでしょうクイズ』を作ろう（「これは、なんでしょう」）
指導者 中村 芳弘（大津町立美咲野小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

学びの土台

これまで：伝えたいことに関連する事柄を具体的に思い出し、必要かどうか判断して選ぶ
これから：互いに話をつなぎながら、目的に応じて、伝える内容や順序について話し合う

学習課題

ヒントの出し方を工夫して、自分と友達のアイディアをあわせながら、『なんでしょうクイズ』を作ろう。

指導事項

互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと
A 話すこと・聞くこと（1）オ

思考操作

ヒントの出し方による違いを見つけ、提示する順序について考える

言語活動

「なんでしょうクイズ」を作る

<立ち止まって振り返る場>

すぐに答えがわかる問題とだんだんと答えが絞られていく問題があったことを想起し、提示したヒントに着目することで課題を設定する。

<考えを表出し比較する場>

答えは同じだが、ヒントの順番が違う問題を提示し、ヒントの出し方と解答の選択肢との関係に着目しながら、ヒント作りのコツについて話し合う。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

ヒントの内容や順番によって解答の選択肢が減っていくことを、タブレットを操作して視覚化しながら話し合うことで、それぞれの考えを明確に比較することができるようにし、根拠のある意見交流を通して、双方の納得解を生み出せるようにする。

本時

本単元で目指す子どもの姿

対話を通して自分の考えが変わったり深まったりすることを自覚し、話し合いを楽しみながら、それぞれの考え方の良さについて認め合える子ども。

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 大津町立美咲野小学校 中村 芳弘

- 1 単元名 ヒントの内容や順番を話し合い、『なんでしょうクイズ』を作ろう
ふたりで考えよう「これは、なんでしょう」（東京書籍1年）
- 2 学習課題 ヒントの出し方を工夫して、自分と友達のアイディアをあわせながら、『なんでしょうクイズ』を作ろう。
- [指導事項] 互いの話に関心をもち、質問や相槌など相手の発言に反応しながら話をつなぐことができるようにする。 A 話すこと・聞くこと（1）オ
- [思考操作] ヒントの出し方による違いを見つけ、提示する順序について考える。
- [言語活動] 『なんでしょうクイズ』を作る。

3 単元について

<教材観>

本教材は、互いに意見を出し合うことで、相手の発言を踏まえながら話をつないでいき、考えを広げたり深めたりするなどの経験を積み重ねることをねらいとしている。二人で話し合うことは、今後、小グループや学級全体へと発展させていく意見交流の基本となるため、相手をよく見て傾きながら聞いたり、話題に沿って自分の考えを話したりするなど、話し合いの基本的な形式を学習することにも適している。そこで、クイズ大会に向けて問題やヒントの工夫を考える活動を通して、新たな気づきやより良い考えを見つけるなど、話し合いのよさを存分に感じさせたい。なお、身近なものの特徴を観察し、言葉で表現することで、ものと言葉のつながりに対する意識を育てることに適している。

<児童観>

子どもたちはこれまで、夏休みの思い出や自分の好きなものについて話す活動を通して、具体的に想起した事柄の中から必要なものを選んで伝える学習を積み重ねてきた。

また、身近なことを表す語句も、話や文章の中で使うことで、自分の語彙として身に付け続けている。

しかし、話す順序と伝わり方について考えることや他者と意見を出し合うことで合意形成を行う経験は少ない。

<視点について>

[視点1] 学びを自覚するための手立て

はじめに、教師が作成した「なんでしょうクイズ」をもとに、出題者は身近なものから問題を作ることや、回答者はヒントをたよりに答えを絞っていくことなど、手順や約束について確認しながら、活動の見通しを持つ。その際に、すぐに答えにたどり着く問題を混ぜておくことで、ヒントの内容や提示する順番に着目し、より楽しもうとする児童の気づきや反応から学習課題を設定する。

また、発言力のある児童や語彙が豊富な児童ばかりが話してしまうことのないよう、「共感を示す」や「復唱して確かめる」など、互いの考えを大切にしながら、対話によって考えを深めていけるような話し合いについて、気づいたことを交流し、出た意見を短いキーワードにして掲示することで、常に意識して活動できるようにする。

振り返りでは、対話を通して自分の考えが深まったり変わったりしたところに線を引くことで、一人では思いつかなかったことに気づくなど、話し合うことの価値を自覚することができるようにする。

[視点2] 共に学び続けるための工夫

チャート図を用いて回答者の思考を可視化し、それらを操作しながらヒントの内容や提示する順番を話し合うことで、ヒントの数を増やすにつれて、少しずつ答えが絞られていくような工夫を考える。そこで、それぞれのパターンを比較したものを根拠とすることで、合意形成を重要視した話し合いができるようにする。

また、ヒントに用いた言葉を、「形」「色」「動き」「場面」などの児童の気づきをもとにした観点で分類することで、身近なものの特徴に着目した共通の語彙として認識させ、継続した活用を促していく。

4 単元の見目

- 事柄には特徴に相違点があることやねらいによって順序付けがあることなど、情報と情報との関係について理解することができる。 (知・技) (2) ア
- 身近なものの特徴を捉えて話題を決め、相手に伝えるために必要な事柄を選ぶことができる。 A話・聞 (1) ア
- ◎ 互いの話に関心を持ち、質問や相槌など相手の発言に反応しながら話をつなぐことができる。 A話・聞 (1) オ
- 話し合うことよさを認識するとともに、情報と情報の相違点を意識しながら対話し、お互いが納得できるように考えをまとめようとする。 (学・人)

5 指導と評価の計画 (4時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導者の出題するクイズをもとに見通しをもつ。 ○ 活動方法と約束について知る。 ○ ヒントをもとに、特徴を表す言葉について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者作成の「なんでしょうクイズ」を体験し、言語活動のイメージをもてるようにする。 ・ 問題の作り方やの仕方について確認する。 ・ 「形」「色」「動き」「場面」などの観点でヒントを分類することで、ものの特徴を表す言葉について着目できるようにする。 ・ 答えが同じだが、ヒントの順番が違ふ問題を提示し、回答者の思考を根拠に話し合うことで、順序の工夫に気づけるようにする。 	<p>知 ものの特徴を表す言葉に着目して、観点に沿って分類している。</p> <p>[チャート図]</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒントの内容や順番を比べて、クイズの難易度との関係を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答えが同じだが、ヒントの順番が違ふ問題を提示し、回答者の思考を根拠に話し合うことで、順序の工夫に気づけるようにする。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>〈学習課題〉 ヒントの出し方を工夫して、自分と友達のアイデアをあわせながら、『なんでしょうクイズ』を作ろう。</p> </div>				
		<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒントの内容と出す順序について話し合う。 ○ 考えたクイズを紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれのペアに題材を配付し、ヒントの内容と順番について話し合う時間を設ける。 ・ 話し合ったヒントを紹介し、感想や気づきを共有する。 	<p>思 ねらいに応じて伝える内容や順番を工夫している。</p> <p>[チャート図]</p>
二	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の様子から話し合いの仕方について話し合う。 ○ 話し合いながら「なんでしょうクイズ」を作る。 ○ 役割を決めて練習をする。 ○ 話し合いの様子について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の話し合いの様子を動画で示し、話し合うときに気を付けることについて児童の気づきをもとにキーワードにして示す。 ・ 答えを教室にあるものに限定することで、ヒントを聞いた解答者が具体物を連想しやすくする。 ・ ペアごとにクイズを出す練習ができるように役割と流れを示す。 ・ 2時間目と3時間目の話し合いの様子を比較し、「話し合いのコツ」についてまとめる。 	<p>思 質問や相槌など相手の発言を受け止めながら話をしていく。[観察]</p> <p>主 自分と友達の考えの相違点を意識しながら話し合い、お互いが納得できるようにまとめようとしている。[発言]</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「なんでしょうクイズ」大会を開く。 ○ 自分や友達のがんばりや工夫について気づいたことを交流する。 ○ 学んだことを振り返り、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童を出題者と回答者に分けて、立場を変えながら「なんでしょうクイズ」大会を行う。 ・ おもしろかったところや工夫していたところなど、自分や友達のクイズを通して考えたことを交流することで、学びを深める。 ・ 学習を通して学んだことを「伝え方」「話し合い方」の視点で振り返る。 	<p>知 順序によって伝わり方が変わることを理解している。</p> <p>[発言・ノート]</p> <p>主 自分や友達のがんばりや工夫について気づいたことを伝えようとしている。[発言・ノート]</p>

6 本時の学習（2 / 4）

（1）目標

相手を意識したヒントについて話し合うことを通して、伝えるために必要な事柄や伝える順序について考えることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○前時のクイズに対する印象を共有することで、学習における課題に気づき、そのことを解決することでよりよいものができそうだという見通しと、解決することへの必要感をもてるようにする。 〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○すぐに答えがわかる問題とだんだんと答えが絞られていく問題があったことを想起し、「みんなが楽しめる問題」について、提示したヒントに着目することで、以下のような課題を設定する。	クイズ
みんなが楽しめるクイズにするために、上手なヒントを考えよう。			
10	2 2つの問題を比較する。	○順番を変えてヒントを一つずつ示し、条件に合う特徴をもつものを出し合い、比較することで、答えの候補数に差が出ることに気づけるようにする。 〈視点2-①〉考えを表出し比較する場 ○答えは同じだがヒントが違う問題を2つ提示し、回答者がヒントごとにどのように答えを絞っていくのかについて具体物（カード）を操作しながら比較することで、ヒントの内容や順番が思考に大きく影響することをとらえられるようにする。	カード
15	3 ヒントを考える。	○クイズの題材は教師がそれぞれのペアに配付し、児童がタブレットを使って分類わけしたヒントの中から適切なものを、話し合いながら選べるようにする。 〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○ヒントの内容や順番によって回答の選択肢が減っていくことを、タブレットを操作して視覚化することで、それぞれの考えを明確に比較することができるようにし、互双方の納得解を生み出せるようにする。	タブレット チャート図
10	4 考えたヒントを紹介する。	◆答えがだんだんと絞られるようにヒントの内容や順番を工夫している。[発言・ノート] ○児童が考えたヒントでクイズを解いてみて、気づきや感想について交流し、工夫の共有化を図る。	
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○本時で共有した学びをキーワードにすることで、次回からの話し合いの視点として活用できるようにする。	